

令和4年度事業報告書

特定非営利活動法人にじいろクレヨン

1 事業の成果

この法人は、1、「東日本大震災の被災児童支援の継続」2、「子どもを見守るコミュニティ作り」3、「子どもの健全育成に関する講座、ワークショップ・ネットワーク作りの企画・実施・運営およびそれらへの参加・協力」の3つを柱として豊かな地域の新しいカタチ（誰もが自分が自分らしく生きることのできる社会）の実現を目指し、豊かな場の体現、実践をしながら、市民とともに認め合う文化が地域で醸成されることを目的とする。

成果として、今年度もコロナ禍の影響もあり制限される部分もあったが、限られた環境の中でどのような手段を用いれば活動を実施できるか、対面での交流が制限された際の繋がり方としてオンラインを活用したワークショップの実施、短時間での活動の開催などスタッフが普段の活動の中で接する地域住民のニーズに合った活動形態を模索し実施した。3つの柱については以下の通りである。



1、「東日本大震災の被災児童支援の継続」について
短時間の活動でも対面で子どもたちや地域とつながり続けられる居場所づくりを心がけ実施した。コロナ禍において人との交流が制限される中で、自然体験活動やのびのびと遊ぶ姿を見ることができた。自然との触れ合いの中で、実験をしながら新たな発見や学びを深める機会や、町内会や地域の大人を巻き込んだイベント等を実施した。



2、「子どもを見守るコミュニティ作り」について
釜、大街道地区を中心ににじいろひろばとにじいろ農園、近隣の復興住宅との連携、多世代、多属性の人々が集まる豊かな場づくりを実践できた。地域の大人が活動や子ども達を気にかける様子や、農園などの道具の修復などに意欲的に参加するなど、地域でつくる居場所になっている。また、オンラインワークショップとともに対面でのワークショップやイベントも少しずつ開催し、石巻市内外の子育て世代とのつながりも深めることができた。



3、「子どもの健全育成に関する講座、ワークショップ・ネットワーク作りの企画・実施・運営およびそれらへの参加・協力」について
当団体での実施は2年目となるポジティブディシプリン講座（日常的に体罰をなくし、親子がより良い関係を作るための子育てプログラム）において、過去の受講者が託児や自団体の活動に参加し新たなネットワークが構築された。また、お絵描き教室事業では子どもたちの創作活動だけでなく、保護者の子育ての相談等の関わりも継続している。



2 事業に関する事項

令和4年4月1日～令和5年3月31日

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	事業回数	事業予定場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
東日本大震災の被災児童支援の継続	【主な活動】 ・子どもの見守り活動、自然体験 【使用助成金・補助金】 ・石巻市移動型プレーパーク支援事業補助金 ・子どもサポート基金（3割）	140回	にじいろ農園 築山公園 2カ所	5名	主として0歳～18歳未満の児童およびその保護者・近隣住民： 子ども：のべ1140名 大人：のべ561名 ボランティア：のべ12名
	【活動報告】 『やってみたいことをかたちでできる』場を目指し、日常の活動の中でも体験したことがなかった火起こしや、創作活動、子ども達が考えたイベント企画のサポートを実施した。また、毎月、日曜、祝日開催の農園イベントを入れたことで、日常的な遊び場への関心も高まっている。 土遊びが自由にできる面や、野菜づくりは子どもだけでなく大人にとっても初めての機会もあるため、驚きや発見を共有できる場となった。 また、町内会との連携も継続し、夏祭りの子ども企画の実施や、情報交換などを行った。				
	【次年度への課題】 ・にじいろ農園が子どもをはじめとする地域の居場所であることを継続して伝えていく。子どもたちの声をひろい、子ども企画当を実施して 午前中は大人のみの参加も増えつつある。午後はこどもだけの参加が多い。夕方も大人が参加しやすい場になるようにしていきたい。				
子どもを見守るコミュニティ作り	【主な活動】 居場所作り・遊び場作り（にじいろクレヨン活動、にじいろ農園活動） 【使用助成金・補助金】 ・子どもサポート基金（7割） ・赤い羽根共同募金 ・心の復興事業	315回	にじいろひろば にじいろ農園	10名	主として0歳～18歳未満の児童およびその保護者・近隣住民： 子ども：のべ3,134名 大人：のべ1,611名 ボランティア：のべ30名
	【活動報告】 にじいろひろば（屋内）、にじいろ農園（屋外）での連携や、SNS、チラシ等での広報に力を入れ、活動へ興味を持つ方や参加者が増えた。参加だけでなく物品提供や見守りなど、様々な面でサポートいただき、活動を継続することができた。 アートワークショップや、にじいろ農園でコーヒープレイクの機会をつくったことで、通常の遊び場には立ち寄りづらさを感じている地域の大人や養育にとっても、活動の周知と交流の機会をつくることができた。				
	【次年度への課題】 参加者同士で安心して遊べる場にしたい思いがある一方で、参加者同士で場を使っていく際に生じるリスク管理（物の使い方等）について検討する必要がある。 いつでも地域の人が安心して気軽に来られるような場にしていくため、少しずつ、スタッフが不在時でも気軽に安心して来られるような配慮をしていきたい。スタッフがいない際に物や場の使い方を知らせる等のサポートをし、スタッフが不在時に来た時でも困らないようにしていきたい。				
子どもを見守るコミュニティ作り	【子育て支援拠点】 「にじいろひろば」活動	156回	1カ所	4名	概ね3歳未満の児童およびその保護者： 子ども：のべ1,095名 大人：のべ1,060名

	<p>【活動報告】 感染症対策等、室内での制限がある中でも利用者とともにアイデアを出し合いながら、安心してイベントや日常の開館を行うことができた。新規利用者と継続利用者が混ざり合うことで、声を掛け合ったり、子育てでの悩みや地域の情報交換をする機会が多くあった。継続して利用してきたにとっては、子どもが就園就学した後も、養育者のみで立ち寄るなど息抜きの場にもなっている。少しずつ感染症対策の緩和も見られるため、にじいろひろば内の昼食利用の再開を求める声もある。</p>				
	<p>【次年度への課題】 ・入園の低年齢化によりひろばを利用する子どもの層が減少している。 ・食に関するイベント・講座の再開</p>				
<p>子どもの健全育成に関する講座・ワークショップ・ネットワーク作りの企画・実施・運営およびそれらへの参加・協力</p>	<p>【お絵描き教室】 お絵描き教室「ゴッコカン」 ・子ども教室（1ヶ所） ・大人教室（3ヶ所） ・出張保育園教室（4ヶ所） ・出張ワークショップ</p>	124回	10カ所	4名	<p>子ども会員及びその保護者・近隣住民・ボランティア会員： 子ども：566名 大人：504名 ボランティア：108名</p>
	<p>【活動報告】 子どもの権利を尊重し子どもの声を大切にしながら制作環境の場づくりに努めた。年齢の差関係なく、ときには、子ども同士で協力しあったり、あるいは個別の制作に集中したい子は集中できるように、お互いで配慮しあい、それぞれが存分に自分の力を発揮できるように工夫した。子どもからは、自分のやりたいことがのびのびできて楽しい等の声があった。ボランティアの受け入れも積極的に行い、創作活動や調理プログラム、遊びの時間の充実を図ることができた。SNSを活用し、保護者へ画像付きメッセージで当日の活動の様子を伝えることができ、双方向でのやり取りもできるので、信頼関係が構築されている。</p>				
	<p>【次年度への課題】 ・静かに制作や遊びに取り組む子、身体を動かしながら制作や遊びに取り組む子がいるので、どちらにとっても集中しやすく、思い切り表現できる環境づくりが必要である。 ・新規生徒を増やすための広報と新規教室の実施。</p>				
<p>子どもの健全育成に関する講座・ワークショップ・ネットワーク作りの企画・実施・運営およびそれらへの参加・協力</p>	<p>【講演会】</p>	10回	<p>県内 1カ所 県外（オンライン） 3カ所</p>	2名	<p>子ども会員及びその保護者・近隣住民・ボランティア会員： のべ292名</p>
	<p>【活動報告】 震災から10年間の活動と震災直後の子どもたちの様子やその対応への取り組みに対しての両面の社会的ニーズを感じるとともに、支援者や新たな仲間づくりとして活動を伝える機会となった。</p>				
	<p>【次年度への課題】 引き続き、活動の様子や子どもの遊び環境、地域の変化を伝えていきたい。</p>				
<p>子どもの健全育成に関する講座・ワークショップ・ネットワーク作りの企画・実施・運営およびそれらへの参加・協力</p>	<p>【研修会】</p>	12回	<p>にじいろひろば 釜会館 2カ所</p>	16名	<p>子ども会員及びその保護者・近隣住民・ボランティア会員：のべ108名</p>
	<p>【活動報告】 月に一度テーマを設け、子どもの権利や子どもの取り巻く地域環境について考える時間や、スタッフ間の活動状況の共有や進捗、コミュニケーションを深める場作りを行なった。また、地域のボランティア、参加者との関わる機会も大事にし、アンケートや多世代交流の機会をつくることが出来た。</p>				

	<p>【次年度への課題】 活動の中で地域の声を拾うことや、活動への理解・仲間を増やすためにもボランティアコーディネーションについて学び直したい。また、活動を地域へより伝える広報手段や、地域交流の促進を図るためにも団体内外の連携を強めていきたい。</p>				
<p>子どもの健全育成に関する講座・ワークショップ・ネットワーク作りの企画・実施・運営およびそれらへの参加・協力</p>	<p>【協働・連携事業】 ・NPO 法人子どもにやさしいまちづくり ・石の会など</p>	20 回	1 ヶ所	2 名	<p>主として0歳～18歳未満の児童およびその保護者・近隣住民：のべ235名</p>
	<p>【活動報告】 NPO 法人子どもにやさしいまちづくりと連携して、市議会議員立候補者へ子ども子育てにやさしい石巻市議会議員を選ぼうプロジェクトに参加した。 また、石の会では月一回の定例会議に参加。遊び場作り居場所作りの情報交換、ネットワーク構築の継続。</p>				
	<p>【次年度への課題】 引き続き、他団体との情報交換を行なう。</p>				
<p>子どもの健全育成に関する講座・ワークショップ・ネットワーク作りの企画・実施・運営およびそれらへの参加・協力</p>	<p>【主な活動】 ポジティブ・ディシプリン講座 【使用助成金・補助金】 ドコモ市民活動団体助成事業</p>	<p>21 回 (1 講座 9 回×2、 2 時間版 1 回、交 流会 2 回)</p>	<p>釜会館 2 ヶ所</p>	18 名	<p>主として0歳～18歳未満の児童の養育者・児童・近隣住民・ボランティア会員： 大人：のべ168名 子ども：のべ138名 ボランティア：のべ139名</p>
	<p>【活動報告】 ポジティブ・ディシプリンの講座を通して、児童虐待予防活動の周知を目的とした。チラシ配布等、広報に力を入れたことで本事業をしるきっかけをつくることができた。参加者からは、「子育てをもっと気楽にやっていたらいいんだと感じられて肩の荷が下りた」「子どもの権利を知るきっかけになった」などの声があった。また、講座と同時に設けている託児スペースでは、これまでの講座参加者が集まることのできる居場所づくりも同時に行い、地域で子どもを見守るコミュニティの基盤づくりにつなげることができた。</p>				
	<p>【次年度への課題】 ・子どもの権利の理念が広まり、良い親子関係の構築、児童虐待予防につなげていくためには、学校や子どもに関わる支援者向けの活動も必要である。他団体と連携し、行政や市議に向けた勉強会の開催や、事業報告会を実施し、子どもや子育てに理解を持った社会実現に向けて市民ネットワークを構築したい。</p>				
<p>その他、この法人の目的を達成するために必要な事業</p>	今年度実施なし	—	—	—	—

(3) 地域社会や他団体との連携について

石巻市福祉部子育て支援課、石巻市社会福祉協議会、石巻市立釜小学校、石巻市蛇田小学校、石巻市青葉中学校、石巻市蛇田中学校、NPO 法人こども∞感ばに一、NPO 法人ベビースマイル石巻、NPO 法人 TEDIC、NPO 法人子どもにやさしいまちづくり、石の会、石巻市こどもセンターらいつ、認定特定非営利活動法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク、認定特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる、石巻専修大学など